

「フランス語ガイド谷中研修」 終了報告

第一支部運営委員会

2020年12月3日(木)、「フランス語ガイド谷中研修」が実施されました。

講師の Astrid PICHARD さんはフランス人の女性としては唯一の全国通訳案内士の仏語資格保有者で、実際のガイド経験を踏まえた実践的な研修となりました。参加者は16名(会員14名、非会員1名、委員1名)。今回はコロナ対策に十分に気を付け、全員マスク着用の上、三密を避けながら研修を実施致しました。

午後1時に JR 日暮里駅南改札口に集合し、まずは天王寺を視察。寺の境内には大きな釈迦如来坐像があります。ここでは仏教に関する説明(宗派の訳は *secte* より *école* がよい)や、フランス人に関心のある境内のシダレサクラ (*cerisier pleureur*)、日本建築独特の雨樋 (*gouttière*) を説明。その後、谷中墓地内を視察し、日本の墓や埋葬に関する説明をされました。

谷中墓地を通り抜けた先の長安寺を視察した後、江戸末期から残る築地塀 (*mur en torchis*) を見学し、その近くにも残る古い日本家屋を含め、谷中地区は古い東京の面影が今に残る貴重な地区であることを説明されました。その後、日本のロダンと称される彫刻家朝倉文夫の朝倉彫塑館の前を通り、谷中銀座通りを散策。工芸品のお店や日常生活品を売るお店など、庶民の暮らしを垣間見れる通りは



フランス人にも人気とのこと。その後、日本文化を紹介する観光案内施設 YANESEN を視察した後、その先にある2年前にオープンしたフランス人経営の日本茶専門店「青鶴茶舗 *Thés du Japon*」を視察し、仏人で初の日本茶インストラクターの資格をお持ちの Florent Wengue 氏の説明を拝聴。50種類以上の日本茶を仕入れているとのこと。

その後は「よみせ通り」を歩き、昔懐かしい精米店や洒落た珈琲店を確認しながら、指人形笑吉へ。通常30分の劇を10分程度の特別構成にして頂き、そのさわりを楽しみました。通常は1時間毎の上演時間が設定されていますが、3人以上いれば、随時上演して頂けるとのことでした。又、指人形でお客様の似顔絵を10分程度で描くこともできるとのことです。その後、木版手摺りの江戸千代紙で有名な「いせ辰」を見、又、金色の観音像が立つ臨済宗の全生庵を見学しながら、ギャラリー大久保にある、立礼式茶室の「瑜伽庵」を見学。そして「瑜伽庵」の向いの奥に5年前にオープンした、3軒の古民家を洒落たお店やビアホールに改造した「上野桜木あたり」を視察。その後、銭湯を現代美術館に改造した SCAI The Bathhouse の横をとおる、旧吉田屋酒店(下町風俗資料館付属展示場)を見学。最後にその前庭で活発な質疑応答をフランス語で行い、充実した研修を終了しました。